

日本NGO支援無償資金協力事業
心と体のケアを通じたコミュニティ復興支援事業 phase1

1. **事業の実施期間：** 平成 19 年 3 月 2 日～平成 20 年 6 月 30 日
2. **事業地：** インドネシア共和国ナングロ・アチェ・ダルサラム州南アチェ県
3. **事業の内容と実施成果**

この事業は、約 30 年に及ぶ内戦の影響による児童の心的トラウマが軽減され得る環境を住民とともに整備することを目的に、ナングロ・アチェ・ダルサラム州南アチェ県の、内戦の影響を強く受け、かつ公共サービスが十分に届いていない 10 村を対象に実施した。本事業は、心のケアプログラムの開発・改善とその実施、活動実施者の養成、心身の健康が維持促進される環境整備、の 3 つに焦点をあてたものである。

児童を対象とする心のケアプログラムの開発・改善・実施については、地元 NGO との連携の下、当団体が当該事業実施前から取り組んできたプログラムを事業目的に添うよう改善、実施した。具体的には、読書、保健衛生教育、ゲーム、創作活動等を含む心のケアプログラムをマニュアル化し、ボランティアがこれらの活動を容易にファシリテーションできるようにし、活動を実施した。結果として、児童が読書好きになったという感想が最も多く聞かれ、事業終了後も多くの児童が図書館を利用している。

事業実施の課題としては、事業開始当初、信仰の厚いイスラム教徒の多い同地域で、活動に反対する声も多かった。これに対し、時間をかけて、活動に関わってもらおうよう積極的に働きかけることで、反対していた住民から理解を得ることができた。

プログラムの活動実施者養成については、コミュニティのボランティアを対象に、児童心理の把握方法やコミュニケーション手法、図書館運営や読み聞かせ技術についての研修を実施した。研修を受けたボランティアを中心に、活動や図書館活動を通して段階的にファシリテーションを行えるよう調整して活動を実施、イニシアティブを醸成するために活動の前後に意見交換を行い、ボランティアが主体的に活動を継続するための環境作りを行った。

住民の心身健康維持のための環境整備については、郡病院と協力し、1 村につき 2 ヶ月間の巡回診療と保健教育を実践した。巡回診療では健康、保健衛生について助言を行い、保健衛生教育では一般的な疾患について原因・症状・基礎的対処法について説明、住民の知識の習得と定着を図った。その結果、多くの住民が、患っていた関節炎の軽減方法など新たな知識を学んだ。また、郡病院の能力強化を図り、さらに郡病院に対する住民の誤解・不信感の緩和を通して郡病院での受診者増加をもたらすなど、地域住民の健康維持に貢献できた。加えて、4 村にてコミュニティセンターを建設、活動や巡回診療・保健衛生教育の実施に利用し、活動終了後はコミュニティ図書館を設置した。

以上の活動により、内戦の影響による児童の心的トラウマを軽減する環境を住民と共に整備するという事業目的は概ね達成されたと言える。今後は、生計基盤の強化を通して、内戦によって疲弊したコミュニティの回復のための支援を実施したいと考えている。

4. **日本NGO支援無償資金精算額：** 米貨 163,844 ドル